

第一回在日早慶OBゴルフ大会開催

記念すべき初の優勝トロフィー

ウリ稲門会ゴルフ会獲りそこねる!



第一回在日早慶OB親善ゴルフ大会が、2014年10月11日、茨城県の「静ヒルズカントリークラブ」にて開催されました。ウリ稲門会の金君夫妻会長ならびにコリア三田会の玄東實会長を先頭に、早稲田OB13名(ゲスト2名含む)、慶応OB16名の総勢29名(内女子3名)が、持参したそれぞれの校旗のもと、栄えある優勝トロフィーと歴史に名前を刻むべく、グリーン上で死闘を繰り広げました。

しかしながら、結果はコリア三田会の圧勝。新ベリア方式で競われた個人戦の優勝から3位まで、そして女子優勝、加えること団体戦までも全てをコリア三田会にさらわれました。ちなみに、総合優勝は金眞厚氏(グロス92、ネット69.2)、女子優勝は朴英實氏(グロス96、ネット6.8)でした。団体戦は、両校グロス上位4名の合計で競われたが、ウリ稲門会は370、コリア三田会は359でした。

総合優勝する12万円相当の「KATANA Voltioドライバー」、女子優勝者には7万円相当の「BridgeStone ViQ CLドライバー」が、二位以下の入賞者へはコトブキゴルフ商品券が贈呈されました。慶応OB達は、これ

以上の喜びはないといったはしゃぎ様でしたが、私たちは暗い顔してヤケ酒を呼っていました。今回は、必ずやりベンジを果たすと誓い、慶応に幹事役をバトンタッチしました。

送迎に40名乗りの観光バスを利用したおかげで、往きから両校OB達は和気藹々といった雰囲気をつくることができました。お祭りの通り、復路はといえば「ドンちゃん騒ぎ」との表現が最もその場を伝えるのにふさわしい言葉と相成りまして、ゴルフ場からJR四谷駅までの約2時間半に、空けたビール缶の数は4打、酎ハイは3打、日本酒は2升、その他諸々…。同乗を余儀なくされた酒を飲まない同窓生達には、迷惑の上なく、誠に申し訳なかったです。当日の20時頃には、解散場所のJR四谷駅へ到着し、千鳥足でそれぞれの帰路につかれました。みなさん、お疲れ様でした。

(文責：ゴルフ会幹事 安昌煥)

会費(5000円)・賛助金は金融機関のATMからも送金できます! 下記口座へお振込みをお願いします

銀行名	ゆうちょ銀行
支店名	019(ゼロイチキュー)
預金種目	当座預金
口座番号	0037085
口座名義	ワセダイガクウリトオモンカイ

(送金名義は会が認識できる名義でお願いします)



WASEDA ALUMNI SINCE 1885

早稲田大学ウリ稲門会

〒105-0001
東京都港区虎ノ門5-1-5
メトロシティ神谷町5階
東京神谷町総合法律事務所内
woori-tohmon@tkm-law.com
発行人：金君夫(編集：編集委員会)

第26号

INDEX

1. 2015年納涼会・奨学生証授与式開催
2. 第一期奨学生紹介
3. 亡き先輩を偲ぶ
4. 第一回在日早慶OBゴルフ大会開催
5. 編集後記

2015年納涼会・奨学生証授与式開催!

猛暑から一転、秋が早く訪れた本年9月19日、母校に隣接するリーガロイヤルホテル東京で2015年納涼会が開催されました。既にご案内の通り、今年から納涼会は奨学生証授与式を兼ねることとなりました。

当日は、10名の奨学生とその他4名の在日在校生、加えて3名の留学生、合計で17名の現役学生が会し、奨学生の家族も交えた多数の老若男女が集う活気あふれる会となりました。



スピーチする金君夫妻会長

金君夫妻会長が、会に先立って主に在校生たちに語りかけたスピーチの一部を以下に掲載します。「ウリ稲門会を代表し、私から君たちに一言お話をしたいと思います。第一は、奨学金の基金、即ち、資金の出処というか性格に関することです。

「ウリ稲門会奨学事業基金」に出資された諸先輩、諸学兄の中には事業をなさっていて、趣旨に賛同され、気前よく大口の寄付をなさって下さった方もいらっしゃいます。しかし、中には小口や、匿名で寄付をされた先輩方も多々いらっしゃるということです。要は、諸君が受け取る奨学金は大企業や財団などからなる通常の基金と性格を異にしています。

二つ目は、奨学金の使い方への我々の希望です。今の世の中、グローバリズムが急速に進展する一方、ナショナリズムのぶつかり合いが顕発、その複雑さの度合いは日々増すばかりです。こういった世相の中でのキーワードはダイバシティ、多様性を帯びた視点、即ち複眼的な視野から本質を見極める思考が肝要だと言われています。このような思考を構築するには、その基本となる自己のアイデンティティ、即ち、在日としての立ち位置をしっかりと見据えて学問をすること、酒を飲むこともよし、人と付き合うことだと考えます。この奨学金がこのような意味でその一助になれば幸いですし、この基金を作った我々の一片のロマンでもあります。

第三点目は、この奨学金制度を作った目的というか意図するところ。我々の時代にはその時代の時勢を反映して大学の構内に南北別々ではありましたが、在日学生のサークルが存在し、その集まりを通じ歴史や言葉を勉強し、種々共有の問題を考えたりしたものです。学内からこういった集まりが無くなって久しいと聞き及んでいます。今年は学年を問わず12名の奨学生を採用しました。基金の総額の関係上、残念ながら来年度からは奨学生の採用は2~3名、それも新入生が中心となります。今年採用された諸君は、在校生間の交流を深め、早稲田



2015年 ウリ稲門会納涼会・奨学生証授与式

ウリ稲門会ウェブサイト ▶▶ <http://blog.goo.ne.jp/wasedauritoumonkai>

編集後記

連載コラムのような編集後記

私は東京の下町、江東区に住んでいます。暇な人たちがコーヒーを飲むために並ぶこともいとわず押し寄せ、にわかに「コーヒー激戦区」と脚光を浴びる、東京都現代美術館や木場公園が最寄りの清澄白河という所です。ほぼ真北4キロメートルあたりに東京スカイツリーが屹立し、日々それを眺めながら過ごしています。パリの同時テロを受けた11月15日の日没後、なじみの風景であるスカイツリーは、青・白・赤のトリコロールカラーに照らし出されました。



無性にフランス映画が見たくて、録りためた中から、アルベール・カミュの自伝的遺作を原作とする「最初の人間」を選びました。映画の舞台は1957年、こんなストーリーです。フランス領アルジェリア出身の著名な作家が、アルジェリア独立戦争最中に、故郷に一人残る母(貧しい入植者だった夫に先立たれ、字も読めない彼女は息子を必死に育てた)を訪ねて数年ぶりに帰郷を果たす。「非暴力に基づくフランスとアラブの共同体」を主張する彼は、激昂するフランス人からも、誇り高いアラブ人からも忌避され、無力な傍観者に追いやられる、だからこそだろうか、家族と

の時間いとおしくもやるせなく、そして静謐に進む...

「私は正義を信じる。しかし、もし母を傷つけたら、私は君たちの敵だ。」1957年のノーベル文学賞受賞スピーチで、彼にとっては隣人であるアラブ人に向けて、カミュが発した言葉です。アルジェリアとフランスに引き裂かれた彼の生い立ちにシンパシーを抱くと同時に、今日においても世界は問題の本質を何ら解決できていないことにあらためて思い至り、戦慄すら覚えます。

奨学生のみならず、知性をもっと知性を。海の方こうの話ではなく、私たちが暮らすことも同じ。癒えることなく通底する憎悪と怒り、それを覆い隠そうとする無関心、それら乗り越えるには知性が必要だ。

当会の恩人ともいえる顧問おふた方が立て続けにご逝去、驚くばかりでした。もうお話しすることもできないうと思つて寂しくなりません。今までありがとうございました。

(編集: 朴魯善)



宴席では、留学生を代表して李常揆君、若手会員の河景浩・羅相福・趙亜悠美各学兄に壇上でそれぞれ一言語っていただき、メインイベントとばかりに奨学生ひとりひとりに自己紹介してもらいました。若い後輩たちの話に「へー」とか「すごいな」とか「頑張れ」とか、諸先輩方のあちこちから声が上がります。時が流れて変わったこと、時が流れても変わらないこと、会場にいらしゃった、上は80代から下は10代に至る世代を超えて、早稲田で学び学んだ私たちが、様々な想いをあらためて抱き紐帯を強くする中、スピーチの最後を李春夫学兄が締めてくださいました。崔相教副会長ご夫妻の仲良く円満な閉会挨拶の後、尽きない

しかも在日の学友、先輩、後輩として親しくなっていたきたい。そして来年以降の新規採用者を迎え入れその輪を広げていただけたらと考えます。そういった学内での人の輪の広がりがこのウリ稲門会の将来にも直接、間接的に繋がっていくと信じているからです。(中略)

この納涼会場で大いに語り、旧交を温め、更には、新たに加わった在校生にご自分の貴重な経験の一部でも熱く語って頂ければと思います。同窓間の交流は勿論の事、世代間交流、異業種交流、勉強会、若者への歴史、文化、経験の伝承、そして婚活まで含めた情報交換の場、これらすべてがウリ稲門会のイベントです。大いに楽しんでください!

続いて、奨学金事業立ち上げに多大なるご尽力をいただいた早稲田大学学生部学生生活課 関口八州男課長から「今日のこの会は歴史的で特別な会である」と祝辞をいただき、その後奨学生一人ずつに奨学生証が授与されました。また当日は、政経学部68年度入学の同窓、「在日の国際家族法とこれに関連する本国法」を専門とする立命館大学法学部・大学院法学研究科講師、司法書士の趙慶済学兄を京都からお呼びし、「在日」司法書士としての31年間」というミニセミナーを開催しました。この講演で私たちが知識を新たにするとともに、学兄は在校生にご自身の貴重な経験の一部を熱く語ってくださいます。



講演する趙慶済学兄

後日、避けられない事情で参加できなかった二人の奨学生には、高田馬場駅近くの韓国料理屋「にっこりマッコリ」で、彼らと同期の奨学生と留学生の10人ほどを交えて、幹事団が奨学生証授与式第二弾を執り行いました。

気持ちを抱えてほとんどの会員が二次会に移動、その先はレポートするのが野暮というもの。当会の画期をなした夜は更けていきました。

第1期奨学生紹介



文化構想学部1年 石 拳樹

今回、ウリ稲門会奨学生に選ばれました石 拳樹です。私は早稲田の同年代の在日の方々や交流してみたいと思い、応募しました。半年前に早稲田への入学が決まったときに、もしかしたら大学で在日の友人ができるのではないかと考えていたのですが、なかなか見つかりませんでした。そんな中でこのウリ稲門会の存在を知り、迷わず応募してみました。そして先日、私が出席した納涼会はとても居心地の良い雰囲気でした。先輩方のお話とても貴重でためになるものばかりでした。

私はまだ将来のことについては決められていませんが、早稲田大学入学後の目標は色んな「当たり前だと思ふ事」についてもっと深く考えていこうとしました。このウリ稲門会での交流を通して在日の仲間を増やし、色んな方々から様々な話を聞き、自分でものを考えて、視野を広げていけるようにしていきたいです。そして、社会に出る前の最後のモラトリアムを無駄にせず、自分自身の大学生活を豊かなものにしていきたいと思っています。



教育学部1年 朴 祉星

こんにちは。出身地は仁川で、六歳の時に父の仕事の関係で日本に来て、小中高と日本の学校に通っていました。出身高校は千葉県にある市川高校です。

ウリ稲門会との出会いがあってから多くのことを考えさせられ、自分の中で考えも大きく変わりました。私は、韓国と日本、どちらにも所属がないように感じていてとても悩み、このように二つの国にまたがっている自分の状況をあまりよくは考えていませんでした。しかし自分と同じような境遇の方とたくさん出会って、お話ができ、どちらかに所属する必要は必ずしもないのではという考え方もすることができ、「在日コリアン」という新たな所属ができたようでうれしく思います。「選択肢が多いということはプラスなこと、選択肢の多い人間のほうが成長できる」という言葉は今までは韓国と日本二つの国しか見ていなかった私により広い世界を見てみたいと考えるようになってくれました。また一方では自分と母国についても深く考えるようになりました。

奨学生の同期のみなさんとは、同じルーツをもっているからでしょうか、バックグラウンドがさまざまであるにもかかわらず、普段はなかなか話さることがないことなどを話すことができました。とても居心地の良い場でしたし、様々な刺激を受けました。みなさんと出会ったことも何かの縁、先輩方のように交友が深められたらいいと思います。さらにこうしてウリ稲門会に参加するきっかけを与えてくださった先輩方に感謝します。私たちの世代がウリ稲門会に協力できることは限られているかも知れません。しかし、私と同じように悩みを抱えている在日コリアンの方々があつても救われるようなそのような場となればいいと思っています。どうぞよろしくお祈りします。この縁を大切にしていきたいです。



政治経済学部1年 任 主赫

はじめまして。私は早稲田大学 政治経済学部経済学科1年生の任主赫(イン・チュヒョク)と申します。私は在日4世で、私の曾祖父は清州島から1930年代に日本に移住してきました。両親が朝鮮学校出身であったため、小学校は東京朝鮮第三初級学校に、中学・高校は東京朝鮮高級学校に通いました。そのため、私は早稲田大学に入学するまでは、在日の限られたコミュニティーの中で生きてきました。早稲田大学では日本の大学生との出会いを大切に、より一層視野を広く出来るよう意識しています。それと同時に、日本のコミュニティーの中で生活しつつも、在日との繋がりを保ち続けたいと思います。ウリ稲門会はまさに、在日との繋がりを持つ絶好の場所だと思います。ウリ稲門会ではあらゆる活動に積極的に参加して、より多くの人と親睦を深めたいと思います。ウリ稲門会のみなさん、これからもどうぞよろしくお祈りします!



国際教養学部2年 宋 倫

はじめまして、早稲田大学国際教養学部2年の宋倫です。今回はこのような名誉ある奨学金を受け取ることができとても感激しています。ありがとうございます!

私は1年前に神戸から上京してきて、それまではカナディアンアカデミーという神戸にある国際学校に幼稚園から高校まで通っていました。趣味は映画観賞で、主に観ているのは洋画やミニシアター系の邦画です。最近はいろんな国の映画に興味があって、東京国際映画祭が開催されていた時は毎日六本木や新宿へ繰り出してヨーロッパ映画を主に観に行っていました。まだまだ知識はありませんが韓国の映画もすごく興味があります! おすすめ映画などありましたら教えて欲しいです(^ ^)

ウリ稲門会では奨学金授与式の時から家族のような温かい歓迎を受けてとても嬉しかったです。初対面なのに昔から知っているような不思議な感覚がして、授与式の時もリラックスして奨学生の方々と会員の皆様とお話できてとても楽しかったです。会員の方も地方からいらしゃった会員のかたもいらしゃり、神戸出身の私もすぐに稲門会の雰囲気には溶け込めたと思います。まだ集まりには奨学金授与式を含め二度ほどしか参加していませんが、もうすでにウリ稲門会が大好きです!奨学生の方々も、共通の話題などがたくさんあり、とても楽しいです!次回の集まりの企画も進んでいてとてもワクワクしています。これからも積極的にウリ稲門会の集まりに参加したいです!



国際教養学部2年
金 主栄

早稲田大学国際教養学部の2年生、金主栄(きむじゅよん)です。日本育ち日本生まれで小学校は新大久保にある大久保小学校そしてその後は(旧)西戸山中学校で一年過した後にYICS(インターナショナルスクール)に転校し、英語での学習を始めました。高校卒業後は念願のシカゴにあるアメリカの大学で英文学を勉強しました。留学中たくさん感じる学びでしたが、その中でも外国の地で自分を客観視できるようになったため韓国人でもあり文化的には日本人でもあるという自分の独特なアイデンティティに気付かされ、両方を自分として受け入れつつ新しい文化とも触れ合うべきなんだなとしみじみ感じました。しかし学費が高すぎる事と日本の大学生活も経験してみたい事とあって2年後には日本に戻り早稲田大学の国際経営部に入学しました。まさか小さいころから常に近所にあったこの大学に入るとは思わなかったので不思議な気持ちでした。そして日本人学生と学校環境で触れ合うのは中学一年生ぶりなのでやっつけられるかなと少々不安気味でもありました。しかし早稲田大学、特に国際教養学部には本当に多種多様な人が居て国際的な人や留学生がとてつもなく多くて毎日とても楽しく、よい刺激になりました。そしてウリ稲門会を通して私と同じような

バックグラウンドを持つ在日韓国人にも会えるようになって個人的にはとてもうれしく思いました。そして何よりも先輩方が後輩の為にとお金で支援してくれる姿に心から感動しました。本当にありがとうございます。これからも、学業・課外活動共に一生懸命臨んで成長し充実した大学生活を送りたいです。在日韓国人としてこれからもこのコミュニティの中でも温かい関係を気付けたらいいなと思っていますし、人生の先輩達からも色々なお話を聞きながら学ばせていただきたいです。



政創造理工学部2年
林 優貴

創造理工学部経営システム工学科2年の林優貴(リンウギ)と申します。この度はウリ稲門会奨学生として選んでいただきありがとうございます。私は幼稚園から高校まで朝鮮学校に通い、15年間民族教育を受けて来ました。朝鮮学校では祖国の言語、歴史、文化など、様々なことを学び、同じ境遇である学生と共に過ごし、在日コリアン3世というアイデンティティを背負って生きてきました。ウリ稲門会には、私のように民族教育を受けて来た学生、数年間母国に滞在して日本にいられた学生、生まれも育ちも日本である学生、様々な学生がいっぱいいます。私は15年間民族教育を受けた身として、朝鮮学校で学んだ大切なこと、思ったことをウリ稲門会の学生達、先輩達と共有する義務があると感じております。これからはウリ稲門会で開かれる集まりに積極的に参加し、同じ境遇を持った在日コリアンの方々ともよりいっそう親睦を深めたいと思います。今後とも何卒よろしく願いいたします。

奨 学 生 諸 君

宝基商事(株)
代表取締役 梁 直基
〒143-0023 東京都大田区山王1-36-21
TEL : 03-3775-0010 FAX : 03-3775-9292

Messe 株式会社メッセ
代表取締役社長 金 君夫
〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9 共同ビル8F
TEL : 03-6859-5225 (代表) FAX : 03-6859-5220

(有)クレ・アート企画
代表取締役 呉 世一
〒121-0816 東京都足立区梅島1-15-16
TEL : 03-3840-3581 FAX : 03-3840-9140
携帯 : 090-3217-1350

朴 平造
〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4-1-1-203
TEL : 011-582-1160
FAX : 011-582-1160

KOCOTOPキコルフ
代表取締役社長 安本昌煥
寿商事 株式会社
〒110-0005 東京都台東区上野3-21-11
TEL : 03-3831-9123 FAX : 03-3831-6126
MOBLE:090-3105-6547

(株)メトロビルディング
代表取締役 韓 熙相
〒175-0083 東京都板橋区高島平8-13-13
TEL : 03-3550-6101 FAX : 03-3550-6174



人間科学部3年
金 賢秀

初めまして、私は金賢秀と申します。私の名前は、キリスト教の牧師さんが「賢く、優秀に育つように」と名付けてくれたものらしいです。しかし、よく友人から、名前負けしてると言われるのですが、自分の謙虚さを知らしめてくれる良い機能があると思っています。他方で、日本においては珍しい名前ですが、韓国人留学生の友人からは、割とポピュラーな名前だと言われたので、韓国の命名法にとっても興味を持ちました。

また、私は将来、アニメーションの製作に携わることができる仕事に就きたいと考えています。しかし、OB訪問をした結果、アニメーションの製作に携わると一口に言っても、アプローチは様々であるのご指摘を頂いたので、最近、非常に頭を悩ませています。ですが、自分に一体何かしたいのかは定まっていませんが、自分にできることから興味関心に合わせて、両者のギャップを狭めて、納得行く結果を得られれば良いと考えています。



国際教養学部 4年
各和奈利(姜奈利)

初めにご挨拶させていただき皆さん、안녕하십니까。国際教養学部4年の各和奈利(姜奈利)と申します。改めて自己紹介させていただきます。

私は東京で生まれ、釜山で育ち、義務教育を東京で終え、米国の高校を卒業した後、早稲田大学に入学、在学中は英国に留学をしていました。現在は「漢字を通じた韓国語と日本語の共通性」をテーマに卒業論文を執筆中です。卒業後は広告代理店に入社予定であり、ソフトウェアによる友好的な日韓の架け橋になるような仕事をしたいと思っています。

前回のウリ稲門会奨学生授与式では大変お世話になりました。私は今まで在日コリアンの方々と接する機会がなかったため、皆さんと交流させていただけたことがとても良い刺激となりました。いただいた奨学金は学費に充てさせていただきました。ウリ稲門会奨学金のおかげで、無事予定通り大学を卒業できるかたちとなりました。感謝してもきれません。この気持ちを忘れず、立派な国際人となり、次世代のウリ稲門生をサポートするかたちでいつか恩返しができるればと思います。次回の稲門会でまた皆さんにお会いできることを楽しみにしています。감사합니다!

お め で と う !

有限会社エフオーケー
代表取締役 琴 栄吉
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨2-4-2-601
TEL : 03-3949-6605 FAX : 03-3949-5730

(株)花永
取締役会長 文 一陳
会社 〒143-0023 東京都大田区山王2-1-8
TEL : 03-3775-0101 FAX : 03-3775-0334
自宅 〒143-0023 東京都大田区山王1-16-7
TEL FAX : 03-3775-7734
Eメール moon77eiji@jcom.zaq.ne.jp

李 永燦
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-11-5-107
TEL : 03-3444-2262
FAX : 03-3444-2262

東京神谷町綜合法律事務所
弁護士 李 宇海
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-1-5
メトロシティ神谷町5階
TEL : 03-3433-7722
FAX : 03-3433-7733

Century21 (株)山一ハウス
代表取締役 崔 相敦(山下)
〒271-0092 千葉県松戸市松戸1276-1
ファミリースクエア松戸101
TEL : 047-362-0021 FAX : 047-362-0063

HEATOPIA GLOBAL FAND
運用最高責任者 河 相 淳
〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-13-13
TEL. 080-7078-0419
MAIL sangsoonha@hotmail.com



法学部4年
金本 哲広

ウリ稲門会の先輩方と同期の皆さまはじめまして。ウリ稲門会の記念すべき第一期奨学生として採用して頂きありがとうございます。早稲田大学法学部4年金本哲広です。今回はこの場を借りて自分について少しでも知って頂けたらと思いきや将来について語らせて頂きます。僕の趣味はサッカーを始めテニスや野球などのスポーツをしたり観戦したりすることです。特にサッカーに関しては、中学生から始めてずっとゴールキーパーとして打ち込んでいたため愛着が深いです。尊敬する選手は元ドイツ代表のオリバー・カーンという選手で、そのプレーもさる事ながら、とにかく激情家で同僚に「この世で最も恐ろしいものは戦争とオリバー・カーン」と言わしめるほどの気迫のある選手でした。僕も彼に影響されてか、昔はピッチの内外で威勢をあげてわめいておりましたが、早稲田に入学して多くの仲間と出会い、語り、衝突を経ることで、周りや協同することの重要性に気づかされました。よって今は「穏やかに、だが秘めたるは熱く」を心がけて毎日過ごしております。また、映画鑑賞、特にモーション・フリーマン映画が好きであり、心挫けそうになる度に「ショーシャンクの空に」や「インビクタス」を見て人生の英気を養っております。そして勉強と将来についてお話しすると、法学部では刑法を専門に勉強しています。刑法は刑罰によって人の生命や自由を奪うという点で法律の中で最も効果が重いものです。そのため文言解釈及び法律の適用を慎重にしなければいけないので、深い理解が求められます。よって刑法の勉強を通じて、法律全体に適用可能な、条文の文言を重視した論理的思考力を培うことができました。これを軸に、勉学に励んで弁護士となり、将来的にはスポーツ選手の所属チームの移籍や年俵交渉などを法律の観点からサポートする代理人業に従事したいと考えております。このウリ稲門会で皆様と出会えたのもご縁ですので、これからも永く宜しくお願い致します。



法学部4年
李 明樹

アンニョンハセヨ。法学部四年の李明樹(りみんす)です。出身は福岡の北九州です。趣味はサッカーと将棋です。大学では、2012年10月に代表として立ち上げた東アジア交流団体「ASAIN SHIPS」の活動に力を入れて過ごしています。

この度は、奨学金に採用していただき誠にありがとうございます。普段、なかなか集まることのできない在日コリアンで、なおかつ同じ早稲田大学で学ぶ同年代、または卒業されて社会で活躍されている先輩方達と、交流の場を持つことは大変幸せなことだと思います。学部も年齢も出身もバラバラな中で、「在日」という一つの共通点のある同年代の仲間達と、意見を交わしながら多くのことを学んでいきたいと思っています。これから就職活動をしていくので、なにか有益な情報がありましたら皆様どうぞよろしく願いいたします!!



法学部5年
張 在勳

初めまして、法学部の張在勳です。この度はウリ稲門会の第一期奨学生に選んでいただき感謝申し上げます。

大学には、様々なことに挑戦しようと思って入学しました。そして色々やる中で、特に大事にしていたテーマは、「人との出会い」です。人間はやはり個性体で、同じ人など全くいません。自分には無いものを持っている人は輝いて見えるし、また他方で、集団の中において、自分の個性にも気付くものです。自分の性格は、明るく楽しく、まじめだと思います。色んな人が集まってこそ、新しい力が生まれると思うので、ウリ稲門会では学生としての若さを活かしたいです!

最近の趣味は、テニスとロードバイクです。先輩とも同年代の方たちとも世代を気にせず文化交流出来たらと思います。ここで、韓国のことたくさん学び、将来は、日韓両国のパイプ役になりたいです。これからよろしく願います。



社会科学部5年
金 安那

こんにちは!社会科学部5年の金安那です。この度はウリ稲門会奨学生として採用して頂き誠にありがとうございます。釜山生まれ東京育ちで、昨年一年間ソウル大学に留学し韓国語の勉強してきました。私は韓国人でありながら日本でずっと教育を受け、日本人の習慣や考え方が先に身につけている自分に疑問を持つことがよくありました。そこで自分のアイデンティティを見つめ直すため、昨年一年間韓国で生活してきました。韓国人の両親のいる家庭環境で育った私だから持っている韓国からの視点、また日本で育ち日本人の中で教育を受けてきた私だからこそ持っている日本からの視点を大切にしたいと感じました。来年からは有難いことに希望していた広告代理店で働くことが決まりました。人々の日常生活に注目し、様々な価値観のある世の中に物事を発信していきます。そこで自分のこの環境を活かした価値観から何か発信して人々の生活が豊かになるきっかけにでもなればと思っています。簡単ではありますが、今回同じ境遇の学生や大先輩方に会えて本当に嬉しく思います。これからはよろしく願います。

亡き先輩を偲ぶ

安王錫顧問

1941年7月8日生まれ
1961年教育学部入学
2015年10月23日 逝去(享年74歳)



「内臓を10キロ切ったよ」6年前に臓臓がんで大手術を受けた後の安顧問から聞いた言葉です。その後、経過は順調で、5年の間に再発もなく、担当医からは「完治おめでとうございませう」と伝えられていたにもかかわらず、今年6月、突然に末期の肺がんを宣告されたそうです。「定期検診を受けていながら、何故、もつとはやく発見できなかったのか?」ご遺族の無念は測り知れませんが、ご本人は、担当医に「ご苦勞様でした。有り難うございませう」と返されたそうです。泣いたのは、それを聞いた担当医の方でした。本人の希望に則り、10月25日にご家族で審葬されていたところ、多数の弔問客がいらっしやうため、急遽26日に告別式となりました。突然かつ時間不足で、訃報がいきなりませんでした。ご容赦下さい。

在学中は韓文研に所属。後輩からの人望も厚く、1964年度幹事に就任。「自分には厳しく、他人にはやさしい、確固たる人生観を貫いた稀有な存在だった。強い人だった。」(金博夫談)卒業後は、新宿三丁目の実家のキムチ屋を手伝い、その後、コマ劇場近くの地下で欧米風の飲食店を開業。これが、大繁盛し、実業家としての道を進むこととなる。当時、韓文研の後輩が資金援助をお願いに行くと、いつも多額のカンパを下り、後輩の面倒見はとても良かった。「ただ、ただ、感謝したい。実社会で活躍している姿は、その後、後輩達に、大いに自信を与えた。」(呉世一談)

当会では2007年に会長に就任。韓文研幹事長出身者が会長に選ばれたと聞き、何かお手伝いできないかと、すぐに後輩有志5名が自主的に集まった。後輩に仕事を押し付けることもなく、気配りを忘れず、育成し、これがその後の幹事団となり、現在も「実務集団」として継続している。当時から在校生のための、「奨学金基金」構想が持ち上がっていたが、何かと困難を伴い、その後、金君夫現会長によって実現することになる。本国の「韓国校友会」との交流、在学中の留学生との交流もこの時期に始まり、現在も続いている。「北にも校友会があれば交流したいのだが、無いからね。」(本人談)とポツリとおっしゃっていた。

慈善事業にも熱心で、東京・王仁(ワニ)ライオンズクラブの会長を歴任。1990年代には、北の「食糧不足問題」に心を痛め、人道的立場から「北朝鮮の子供達に愛の手を」活動を推進、大量の小麦、バナナ、卵等を輸送し、「確実に子供達の手が届くのを確認するため」(本人談)自ら北朝鮮に渡った。ジェントルマンを絵に描いたような方でありました。今は、ただ、ただ、先輩のご冥福を祈るのみです。



沈廣燮顧問

1935年1月20日生まれ
1958年商学部入学
2015年11月4日 逝去(享年80歳)

今年の5月、肺がんで余命6ヶ月の宣告を受ける。亡くなる1ヶ月まで、会員の誰も病状に気付かず、10月頃から、だいぶお疲れのようだというので、亡くなる数日前に、「お疲れのようだと聞きましたが、体調はいかがですか?」と、電話したところ、「大丈夫だ。12月の忘年会は参加するから場所と時間を教えてくれ」と、すっかり口調がおっしゃってました。自宅療養を続け、抗がん剤も特に使われませんでした。「担当医は6ヶ月と言っていたけど、なんとか、このまま元気だいて欲しい」という家族の願いも虚しく、息子さんには、担当医から、「来年、元気に生活しているということはない」と、伝えられていたそうです。当会のイベントには必ず参加されていたのに、9月の納涼会は欠席され、今にして思えば、その頃から体調が優れなかったのかもかもしれません。元気なうちと思われたのか、7月には、ご家族、お孫様たちと旅行を楽しんでいたとのこと、それが、ひとつの救いと思われず。葬儀当日は広めの会場が満席、入りきれない弔問客で会場の3Fロビーも満杯、1Fの受付ロビーまで人の波となっていました。「会場がなかなか見つからず、皆様が入り切れず申し訳ありませんでした。」(奥様談)とのことです。

昔から、焼肉明月館は在日なら知らない人はいない程、有名でした。「沈顧問」というより、「明月館の松井さん」で通ってました。専務の息子さん、支配人の平林さんがしっかりいらっしやう、これからは明月館の発展を祈念しております。当会の事務所も昨年の夏まで、明月館のある明広ビル4Fに置かれていました。長年、同窓会の事務所を提供して頂き、改めて深謝致す次第です。新事務所は監査役の李宇海弁護士が快く引き受けてくれました。「歴史的役割は弊所にて継承致します。光栄です」(李宇海談)昨年末には感謝を込めて、色紙2枚に皆で寄せ書きをし、額縁に入れて、お渡ししました。金君夫会長の強い意向でした。「これはウチの家宝にしないといけないな〜」(本人談)と嬉しそうに受け取って頂きました。「同窓会だけじゃ留まらず、民族社会に多大な貢献をされた。今は、とにかく寂しい。30年前には家族ぐるみでハワイに行ったことが懐かしい。楽しかった。明月館は心のふるさと、シルクロードのオアシスの様なものだった。」(文一談)

周囲の信望も厚く、常に、献身的な方でした。東京・王仁(ワニ)ライオンズクラブの会長を二回歴任。当会では2003年から4年間に亘り、会長を務めていらっしやう。「主人はウリ稲門会やライオンズの会合があるときは、いつも、嬉しそうに出かけてましたよ」(奥様談)

波乱の人生であったとご推察いたしますが、今は、安らかに、天上から我々をお見守り下さい。 合掌。

今年は、まさかと思う時期に立て続けに、顧問2名が去っていかれました。ここでは、「会長・顧問歴任者」のみの掲載となりましたが、「春秋会」の有力メンバーであった、金漢相学兄(5月26日逝去)を含め、掲載し切れなかった先達の方々の恩恵を忘れることなく、今後も、当会の親睦の輪を広げていきたいと思っております。亡くなられた先達方に改めて敬意を表し、ご冥福を祈る次第であります。(文責 河:文中敬称略)